

患者様情報

来院されるまでの症状

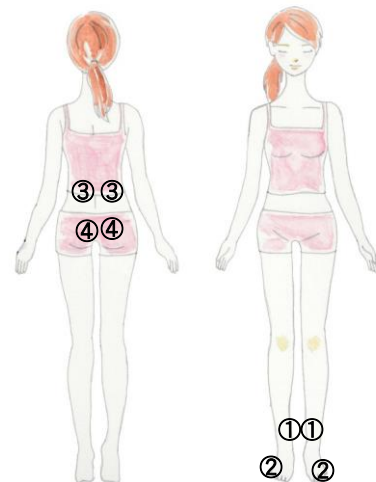
- ・初診時、妊娠9か月(約34週)。逆子と診断され、自分で体操などをしてみましたが、なかなか改善されないとのことでした。
- ・自然分娩したいので何とか治して欲しいとのことでした。
- ・また、最近頭痛がひどいので、それも治したいということで、来院されました。

患 者 様	30 代 女性
初 診	2015 年 11 月
既 往 症	なし
他 の 症 状	頭痛、足のむくみ、首肩こり

四診と経過

■ 診療（診断と施術）

- ・背中、腰、仙骨部、股関節周辺の緊張や張りが目立ちました。
- ・筋緊張をほぐすように鍼をし、骨盤内の血流をよくするため特に腰、仙骨、仙腸関節、臀部にかけてを中心に行いました。
- ・逆子に有効な「至陰」というツボにお灸を据えました。



■ 初診後の経過

- ・2回の治療で腰から仙腸関節にかけての張りが軽減しました。
- ・治療した翌日が産婦人科の診察日だったので、様子をみますとのことでした。
- ・その約3か月後に再び来院され、予定日より1週間早く出産しましたが、無事逆子は治り自然分娩が出来たとのこと報告を受けました。

使用した主要なツボ

- ①三陰交(サンインコウ) ②至陰(シイン)
③腎兪(ジンユ) ④八髎(ハチリョウ)

■ ひとこと添えさせていただきます

- ・一般的には妊娠28週を過ぎると胎児の頭が重くなり、自然と頭が下がりそのままの状態です。妊娠28週～30週までには治ることが多いです。
- ・他方、32週を過ぎると子宮の容積に対して赤ちゃんが大きくなるので羊水も減り、自力で回転することは難しくなるといわれています。
- ・腰周りの緊張や張りが骨盤内の血流にも関係してくるので、血流を良くして子宮の筋緊張をとることが逆子に対して効果的です。
- ・積極的に歩き、体を温める食べ物を摂ること、睡眠をしっかりをとることを、無理のない範囲で意識して行動することが大切です。